

# 77校の実践研究を助成

## パナソニック教育財団が贈呈式

(公財)パナソニック教育財団は4月27日、東京都内で「平成30年度助成金贈呈式」を開催した。本助成には全国の学校から341件の応募があり、特別研究指定校4校(応募18校)、一般指定校78校(応募323校)が助成校に選ばれた。

赤堀侃司氏は、「子供たちがどう変わるのか、具体的にわかるように取り組む、新たな教育のモデルとなるようなパイオニアとして活動してほしい」と語った。

特別研究指定校に選ばれたのは、岐阜大学教育学部付属学校(岐阜県)、武雄市立武内小学校(佐賀県)、八王子市立高尾山学園(東京都)、三條市立大島中学校(新潟県)の4校。

同財団はICTを効果的に活用し、教育内容及び教育方法の改善等に取り



助成校の教員がグループ討議

贈呈式後には助成校の教員が16グループに分かれてグループ討議を行いました。

意見を書き込んだり、タブレット端末を使い、動画で取組を紹介したりする等の様子が見られた。

特別研究指定校4校のグループでは、武雄市立武内小学校は1人1台タブレット端末を活用し、デジタル・アナログの両面から他者と協働・協調する「友だちタイム」を充実させること、「ICTスキルタイム」を設定し、タブレットペンやキーボード操作を練習することで、情報入力や時間削減すること等の取組を報告。三條市立大島中学校は、農業体験や地元

小柳和喜雄教授(奈良教育大学)は実践研究を効果的に進めるポイントとして、目標の明確化、スケジュールの確認、成果と取組の評価、教員の自信や専門性を引き出すこと、成果物の作成と相互評価・前向きな省察等を指摘。「ICT活用を目的達成のための手段として活かすことが重要」と述べた。

い、学校の現在の取組、研究計画、ICTの整備状況等について意見交換した。審査を担当した専門委員がメンターとして助言。ホワイトボードに